

ギャラリーセッション

第二次世界大戦終結から今年で**70年**。赤十字国際委員会（ICRC）と京都大学総合博物館は、戦時下で自由を奪われとらわれの身となった戦争捕虜や抑留された民間人が置かれていた状況を、**ICRC**が所蔵する写真や資料を通して紹介する特別展を開催します。この特別展の開催を記念して、ギャラリーセッション（公開講演会）を**2回**に渡り催します。

1

「戦時下における捕虜 - 歴史的な観点から」

第二次世界大戦以前の戦時下における捕虜の状況を、特に日本人捕虜に焦点を当てて解説します。また、捕虜条約が誕生するに至った経緯や、その後捕虜がどのような保護を受けることになったのかについても説明します。

2

「中東で何が起きているのか -
紛争下における国際人道法の役割」

登壇者 **濱本 正太郎** 京都大学大学院法学研究科教授
ピーター・ネルソン 在京スイス大使館公使
柴崎 大輔 ICRC駐日事務所 政策担当官（2015年にレバノンに短期赴任）

戦時下のルールとして誕生した国際人道法(IHL)の意義や、IHL推進に尽力しているスイス政府の取り組み、現在中東で起きている人道危機について、特にレバノンに焦点を置いた人道的観点から、それぞれの専門家が対談します。



※お申し込みしていない方は参加出来ない場合もありますので、必ず事前にお申し込みください



ICRC